

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

303  
26

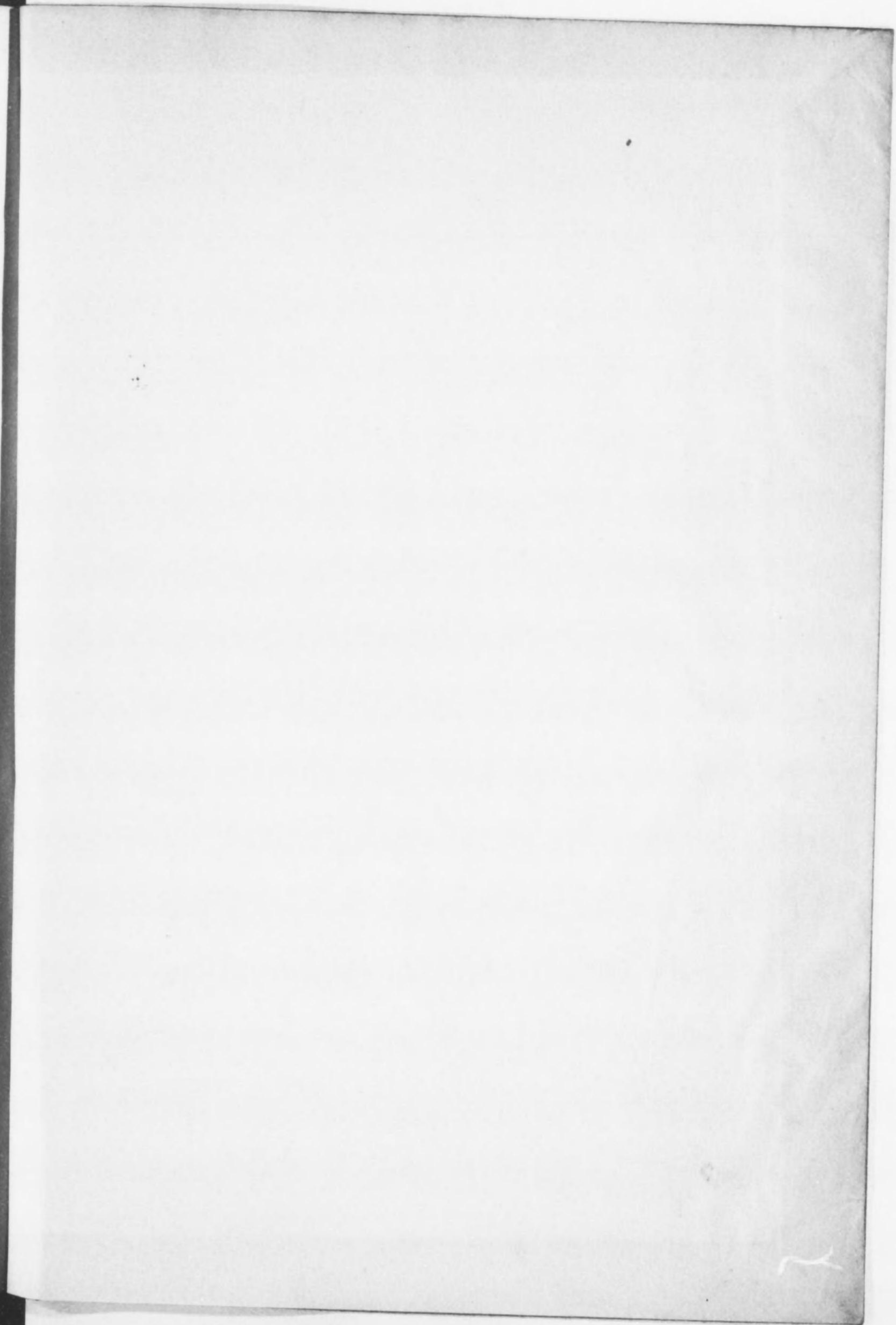
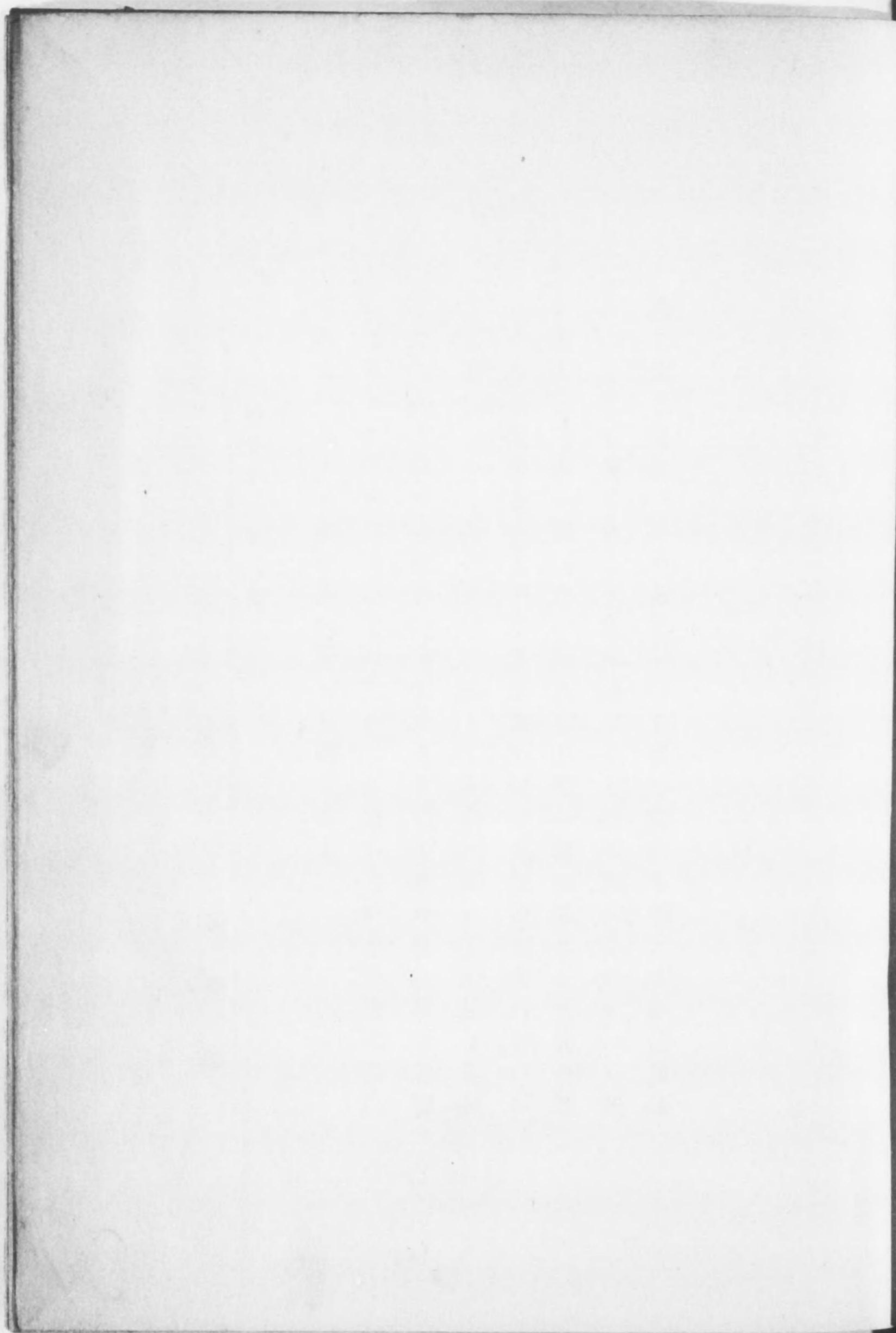
水  
か  
け

始



303  
26

水  
う  
き



歌と書と源は一つである。一つを耳に聞える響とすれば、他は目に見える流であらう。響の緩うして流の豊かなのもいゝ。響の高うして流の濁つたのもおもしろい。響の強うして流の怒つたのも悪くない。しかし、私は響の爽やかなのと流の清いのとを望むものである。それが低くてもいゝ、透れば満足する。細くてもかまはない、澄めば本懐である。私の歌の聲は低く且細い。書もまたそれに伴つてゐるが、まだ透らない、その上に澄んでゐない。これが私の人に恥づる處である。



昭和十一年三月

尾上柴舟

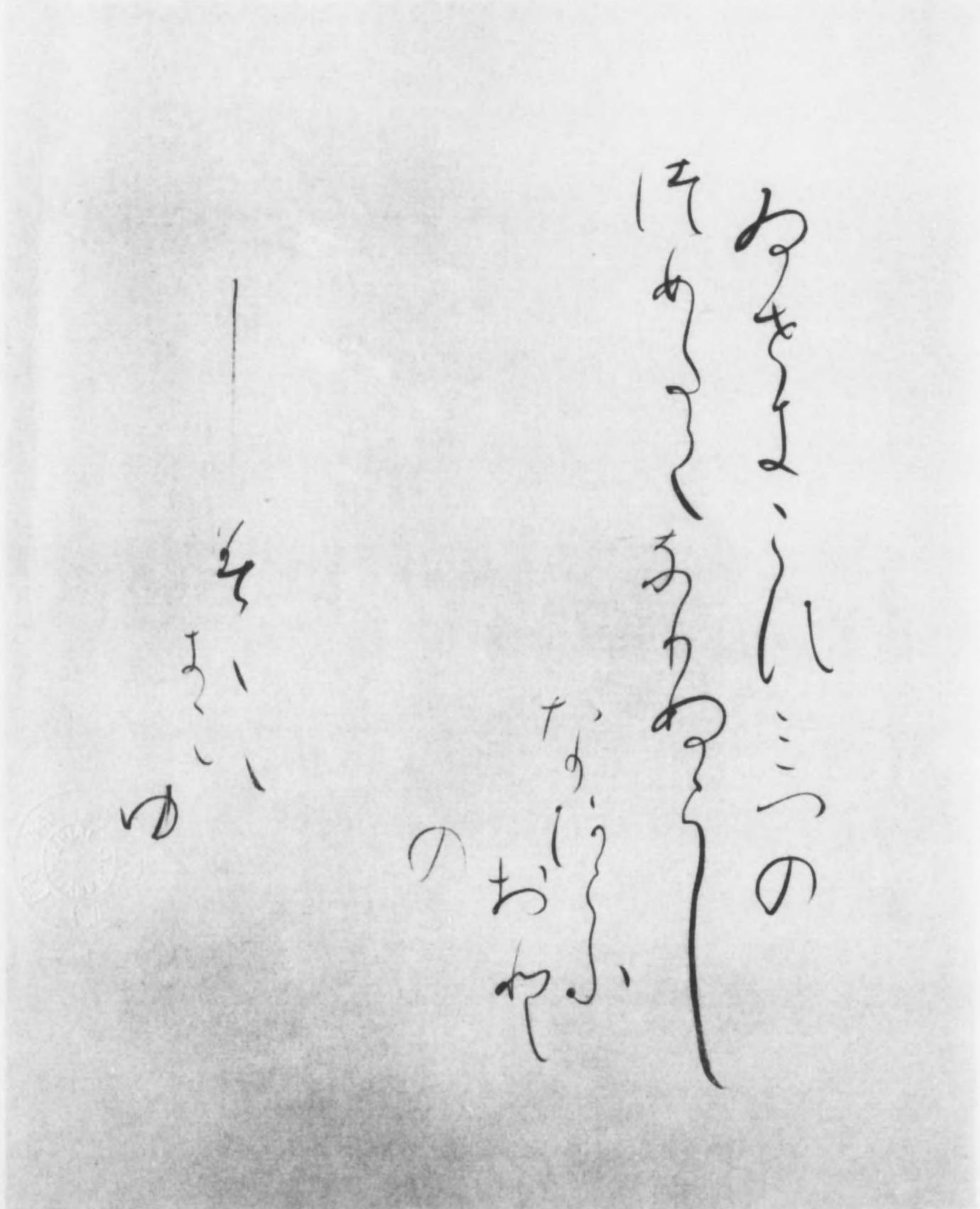
一 山の霧凝りて作れる朝露の草生の冷は靴に透るも  
二 堰塞越す水の冷たくなりぬらし菜洗ふ音のしみじみ聞ゆ  
三 立ち迷ふさ霧の上に現はれて遙かなるかな山の嶺  
四 降らむとし僅に保つ空の下に咲き滿つ梅の花は寂しも  
五 大空の色も深さも變らねばまたわが涙落つるなりけり  
六 細細と鳥のあとこそ續きたれ川原の砂の夕べ白きに  
七 東山續く峯峯ほの黒き上に夜中の月一つあり  
八 ほとほとと枝の尖よりこぼれ落つ濕滿てる春の夜の雪  
九 山の鳥又も啼くよと呼ぶ聲に軽くはねたる麻蚊帳の裾  
十 影暗き山の上にして月は今澄まむ限を澄まむとすなり



Handwritten text in cursive script (Caoshu), starting with a vertical line and a dot, followed by several connected strokes.

Handwritten text in cursive script, consisting of a series of connected, flowing strokes.

Handwritten text in cursive script, appearing as a shorter, more compact sequence of strokes.



ゆきまの  
はな

の  
ち  
や  
の

—  
ゆ  
ま  
の

きりぎりす  
の  
あし  
し

きりぎりす  
の  
あし  
し





あつた  
をいし

たに  
あつた  
をいし

あつた  
をいし

本々、也  
とわたり、糸  
きり  
の  
まじり  
の  
まじり

う  
の  
の  
の  
の  
の

う  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の



Handwritten notes on a rectangular piece of paper, oriented vertically. The text is written in cursive and includes:

1. *1875* (written vertically on the right side of the paper)

2. *1876* (written vertically in the middle)

3. *1877* (written vertically on the left side)

4. *1878* (written vertically on the far left)

Blank page with faint horizontal lines, likely a ledger or notebook page.



303  
26

11.4 4

昭和十一年四月三日印刷  
昭和十一年四月八日發行  
本館 設 名古屋市東區北區町二丁目二十三番地  
編輯 代表者 松田常憲  
印刷所 會社 審美書院  
東京市京橋區區區三丁目三番地



303  
26

終